

テーマ別研修会

第3回テーマ別研修会をWEB配信にて実施しました。

- テーマ：「緩和ケアを知って介護に活かそう」

緩和ケアの概要、緩和ケアの実践等について

- 講師：宗像医師会病院 がん性疼痛看護認定看護師 藤岡 利恵子 氏

- 配信期間：令和3年11月22日～11月29日

- 視聴者：129名

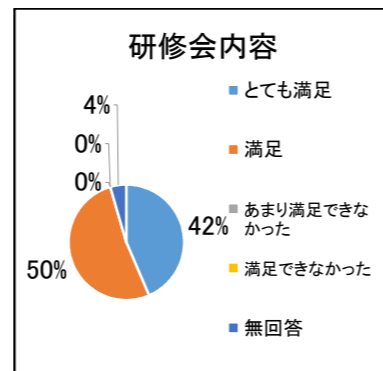


緩和ケア実践の部分では、段階別の患者さんの身体の変化やケア、ご家族へのケア、介護職にも必要なグリーフケアについても、詳しく教えていただきました。

視聴者から寄せられた、ご意見等の一部をご紹介します。

- ・患者さんの段階別の心の動きや、その対応等がとても勉強になりました。
- ・「辛さを和らげる」ケアに心がけたいと思います。
- ・緩和ケア病棟の雰囲気や実際の対応を知ることができ良かったです。
- ・地元で緩和ケア病棟があることを知り、安心しました。

※グリーフケアとは、複雑で深刻な心の状態を理解して寄り添うことで、回復をサポートする取り組みのことです。

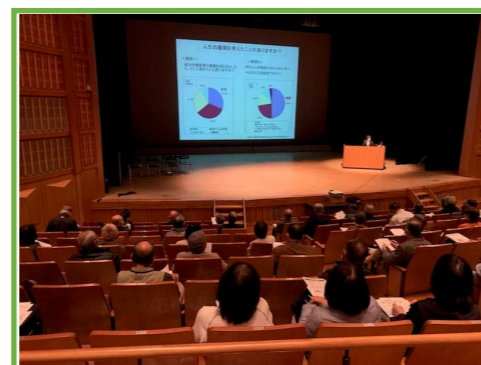


住民向け講演会

12月9日に福津市カメラホールにて、福津市民生委員児童委員のみなさまにお話させていただきました。

事業室職員が在宅医療の概要や人生会議について、その後、水光会ふくま訪問看護ステーション橋木所長が、事例を交えた訪問看護の実際について話しました。

参加者から、「具体的な内容で在宅医療、訪問看護がよくわかりました」「在宅医療の重要性がわかりました」等の感想をいただきました。



多職種連携研修会

むなかた地域の多職種連携研修会をWEBにて実施しました。

昨年度はコロナ禍で集合研修ができない状況であり、むーみんネットYouTubeチャンネルから学習動画配信やDVD貸出を実施しました。今年度は何としましても、全体研修会・グループワークを実施しようとの思いで、地域リーダー会議で協議を重ね、WEB研修会を開催することができました。

今回は、コロナ禍において直面している多職種連携上の課題をふまえ、利用者（患者）の望む暮らしの実現に向けた支援、専門職としての役割等について、グループワークを行い多職種の役割（多職種の視点や得意分野）を理解し、連携方法・タイミングについて学びを深めることを目的に開催しました。

- テーマ：「コロナ禍における連携の必要性」 ～生活を支えるための多職種連携とは～

グループワーク1「現状や課題を共有する」

コロナ禍における情報共有の現状、困難な点、工夫している点等

グループワーク2「利用者に不利益が生じないために」

退院時の病院と在宅側の情報共有の必要性やありかたについて、各職種が重要視すべき内容や介入のタイミング等

- 日時：令和4年 1月15日（土）14：00～15：45

令和4年 2月15日（火）18：30～20：15 ※Zoom飲み会20：30～

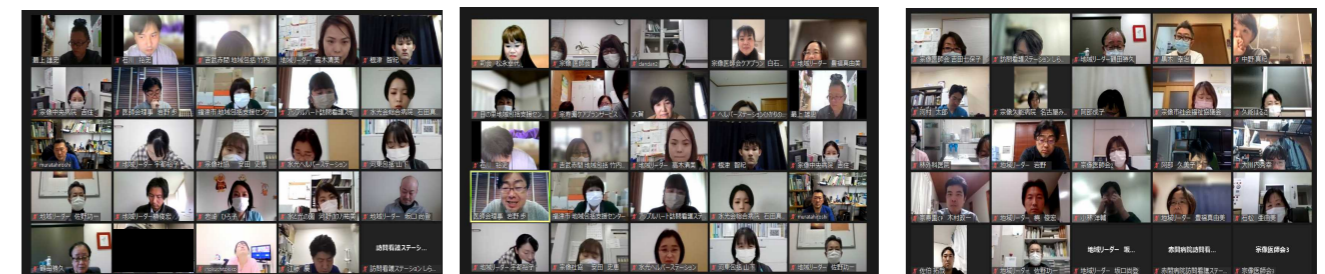
- 参加者：53名（医師、歯科医師、薬剤師、看護職、介護職、介護支援専門員、相談員等）

研修会終了後のアンケート結果を一部ご紹介します。

- ・研修会の内容は、95%が「満足できた」「ある程度満足できた」と回答。
- ・職種を交えて話すこと、情報を共有することで見えてくる問題や解決方法があることについては97%が「体感できた」、「ある程度体感できた」と回答。
- ・今後の業務に活かすことができるかについても、95%が「できる」「ある程度できる」と回答。
- ・参加者からの声

「『コロナ禍だから』ではなく、どのような状況でも患者さんに不利益が生じないように支援することを多職種は忘れてはならない」「職種により色々な視点が違うことに気づくことができた」「多職種が集まりアセスメントすることで、利用者の全体像をとらえられることを実感した」といった感想が多くあげられました。

なお、研修会後に希望者のみでWEB飲み会を実施しました。業務とは違う話も広がり、参加者同士の親交が深められました。今後も実施していく予定です。



多職種連携会議

第3回を11月9日、第4回を2月8日に開催し、テーマに沿った課題の共有、次年度の取り組みに向けて協議を行いました。

会議の中で出された意見をいくつか紹介します。

●「緊急災害への対応検討」

- ・BCP計画について現状は団体単位、事業所としても作成できていない。
- ・実例をふまえ、実際に取り組まれている地域の話聞いて、どのような問題があるのかを考えたらよいのではないか。
→ 実際に取り組まれている地域の話等を聞き、情報収集し、BCP作成にも役立てていく。情報を集めその都度、会議で報告・共有していく。

●「認知症の方への支援、服薬管理」

- ・服薬管理について、1週間に1～2回の訪問になると人の目がない分飲みすぎ飲み忘れがあり、管理の難しさを感じている。
- ・地域の社会資源（インフォーマル含め）を利用し、見守り支援を行っていくことも検討する必要がある。
- ・薬を一包化する前に減らすことも考える必要がある。飲んだほうがいいのか、飲まなければならない薬なのか。それを医師と確認していく必要がある。
→ 居宅療養管理指導での薬剤師の役割、また各職種で取り組めることの再検討等、支援者間で適宜協議していく。

～ 来年度の取り組みに向けて ～

- ①多職種の課題を抽出するためのシステムを考える。
(いつでも課題をあげられるようにする方法)
- ②課題抽出するための内容を考える。
(アンケートに限らず、幅広く対応できるもの)



宗像市・福津市在宅医療・介護支援ネットワークマニュアル

前のご案内いたしましたとおり、改訂版が完成いたしました。

関係機関等への送付、またマニュアルの一部をホームページに公開しました。

ご利用いただけたら幸いです。

※改訂した項目

- 「在宅薬剤・医療・衛生材料供給システム」
- 「主治医不在時の代医依頼の手順書」
- 「むーみんネットシステム運用マニュアル」
- 「在宅医療機器貸出事業運用規程」

※追加した項目

- 「むなかた地域多職種連携ツール」
- 「宗像・福津エリア入退院支援の流れ」



宗像市・福津市医療・介護資源情報

宗像市・福津市の医療・介護資源情報を提供しています。医療機関や介護保険サービス事業所にご協力いただき、詳細情報を更新しています。スマートフォンやパソコンからの「検索・閲覧」ができますので、是非ご利用下さい。なお、掲載している情報は随時更新可能です。いつでもご連絡下さい。

- URL <https://muminnet.jp/shigen/>

- QRコード →→→



宗像市・福津市医療・介護資源情報

宗像市・福津市の医療機関や介護サービス事業所等の情報を提供するシステムです。なお、この内容はホームページでの掲載をご了解いただいた機関のみ掲載しております。

病院 をさがす

歯科 をさがす

保険薬局 をさがす

事業所・施設 をさがす

出前講座

1月21日に、福津市宮司コミュニティセンターにて行いました。福津市地域包括支援センターから、フレイル予防についての講話や運動を実施、その後に在宅医療の具体的なお話をしました。参加者から、「さっそく運動をします」「在宅医療という言葉は知っていましたが、具体的にイメージできるようになりました」「最終段階の過ごし方を考えるきっかけになりました」等の感想をいただきました。

～ 住み慣れた場所で最期まで自分らしく過ごせるように ～

在宅医療という選択肢について一緒に考えましょう

宗像医師会在宅医療連携拠点事業室(むーみんネット)

出前講座ダイジェスト版

感染対策を実施しながら出前講座を行います。是非お気軽にご連絡ください。

会場：地域のコミュニティセンターや公民館
対象者：地域の団体やグループ
時間：1時間程度
費用：無料



相談窓口のご案内

宗像医師会 在宅医療連携拠点事業室

むーみんネット

家に来てくれるお医者さんはいるのかしら？

地域にはどんな介護事業所があるのかしら？

緊急時の対応が不安...

在宅医療について学んでみたい！

在宅療養の「困った」を支援します

地域住民が病気になっても、可能な限り住み慣れた場所で自分らしく暮らすためには、医療・介護にまたがるさまざまな支援が必要になります。宗像医師会在宅医療連携拠点事業室(むーみんネット)は、在宅療養を始めたい場合や自宅での療養生活などに関する、各種相談をお受けしています。また、医師、看護師、介護支援専門員(ケアマネジャー)など多職種間の連携の橋渡しも行っています。

お電話や、窓口での相談をお受けしています。お気軽にご連絡ください。

TEL (0940) 37-5020

宗像医師会 在宅医療連携拠点事業室(むーみんネット)

〒811-3431 宗像市田熊5丁目5-1
宗像医師会在宅総合支援センター2F
TEL (0940) 37-5020
FAX (0940) 37-5021
URL <https://www.mumin-net.jp>
E-mail mumin-net@munakata-med-hp.gr.jp